四国電力伊方原子力発電所から広島方面をのぞむ。左から 1 号機、2 号機、現在稼働中の 3 号機
撮影：網野沙羅（2016 年 12 月 11 日）

四国電力伊方原発 瀬戸内海への危険性

新たな学術的知見

廿日市講演

広島大学大学院理学研究科・地球惑星システム学専攻
早坂 康隆 准教授

伊予灘中央構造線の位置と
伊方原発周辺の地震ポテンシャル
～想定されるあらゆること～

2017.3.4（土）

廿日市講演　14:00 ～ 17:00
廿日市交流プラザ　多目的ホール A
入場無料・予約不要（資料代 500 円）

主　催　廿日市早坂講演実行委員会
実行委員会事務局　〒733-0012 広島市西区中広町 2-21-22-203
（伊方原発広島裁判応援団事務局内）

廿日市早坂講演会

最悪のシナリオは ――

「巨大地震発生でボロボロの岩盤もろとも伊方原発が瀬戸内海に崩落すること。」

瀬戸内海が「死の海」に

広島大学大学院理学研究科
早坂 康隆 准教授

広島大学大学院理学研究科早坂康隆准教授（専攻は岩石学・構造地質学・地質年代学）や愛媛大学前学長小松正幸名誉教授（専攻は岩石学・構造地質学）らのグループは、伊方原発近傍の活断層は、従来いわれていた前面海域断層帯（同原発から６～８ km 沖の海域）だけでなく、敷地から約 600m 沖に危険な活断層が存在している可能性を明らかにし、２０１６年９月の日本地質学会学術大会で発表した。この新たな知見は、公表したばかりでもあり学界内でのコンセンサスが得られる段階にはないが、ここ２～３年内に伊方原発の危険性についての有力な共通知見となる可能性が大きい。私たちはこの新たな知見をいち早く市民社会に紹介・普及し、市民の知的共有財産とする目的をもって本講演会を開催する。ひとたび原発で過酷事故がおこれば「国破れて山河もなし」となる。二度と「想定外」とは言わせまい。

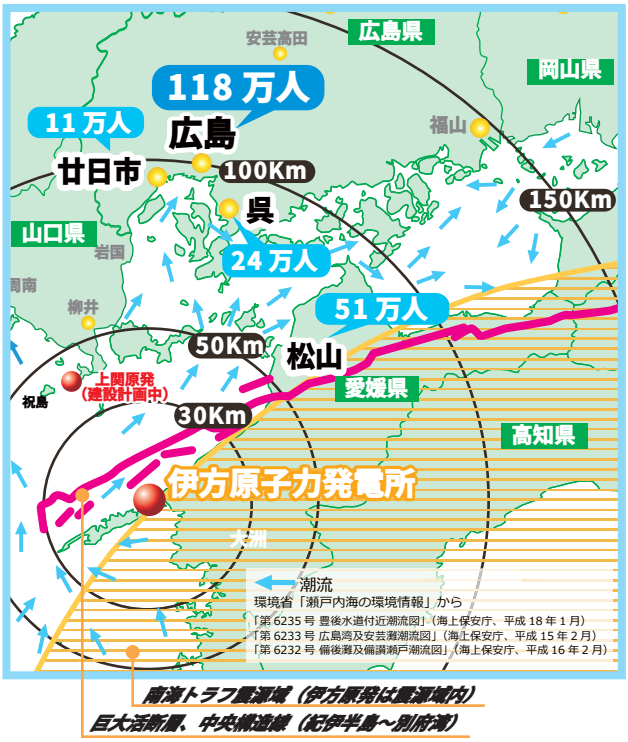
▲ 地震調査研究推進本部 web サイト「中央構造線断層帯　石鎚山脈北縁西部－伊予灘」

2017.3.4（土）

廿日市講演 14:00 ～

廿日市交流プラザ 多目的ホール A
入場無料・予約不要（資料代 500 円）

主　催	廿日市早坂講演実行委員会
実行委員会事務局	〒733-0012 広島市西区中広町 2-21-22-203（伊方原発広島裁判事務局内）



中央構造線ダメージゾーン岩盤の上に立つ伊方原発